

和歌山病院での実習を終えて



森 佑熙

和歌山県立医科大学第三内科の臨床実習の一環として、1月22日、23日に国立病院機構和歌山病院で実習させていただきました。和歌山病院は和歌山県で唯一の結核病棟を有する病院であるという知識だけにはありましたが、訪れるのは初めてであり、実際の結核病棟がどのような設備を備えているかをこの実習を受ける前はわかっていませんでした。そのような状態で実習に望み、まずはじめに駿田副院長に結核を中心として感染症の感染様式・対策などの講義をしていただきました。結核が空気感染しにくいこと、そのため感染対策としても空気感染対策のみで十分であること、またなぜ空気感染しにくいのかを教えてください大変勉強になりました。“結核・水痘・麻疹は空気感染する”と暗号のように覚えていた自分は結核が空気感染しにくいという重要な事項もうろ覚えで、さらになぜそうなのかなど考えたこともありませんでした。続いて、実際にN95マスクをつけて結核病棟にはいらさせていただきました。N95マスクの密着感や長時間付けることによる息苦しさなどを体験できて、N95マスクの適切な使用について学ぶことができました。また結核病棟は自分が事前に考えていたよりも嚴重なものではなく、それも結核の感染についての正しい知識があれば納得のいくもので、早速講義の知識との答え合わせができたと感じました。

南方院長からはレントゲンの見方について、根本的な部分から教えていただきました。これまでは、典型的な写真を覚えてそれと合致するかどうかの神経衰弱のような状態で、苦手意識が強かったのですが、南方院長の講義を受けてからはどのレントゲンでも共通の順番に見るべきポイントを見ていくことができるようになり、レントゲンをしっかり見ようかなという気持ちになりました。それも南方院長のわかりやすい例え話やヒントをあたえつつわれわれ実習生が自分で分かるまでじっくり考えさせてくれる講義があったことで、感謝の気持ちで一杯です。これからは頭を柔らかくして、詰め込むのではなく考える勉強をしていきたいと思います。

学習面以外でも、南方院長と一緒に食事をさせていただき、御坊の逸話や他にも面白い話をたくさん聞かせていただいて大変楽しく過ごさせていただきました。また実習班で一泊二日をとともに過ごして、いよいよ終盤を迎えた臨床実習の思い出としてもとても良いものができました。

最後になりましたが、南方院長、駿田副院長をはじめ、和歌山病院の関係者の方々にはお忙しい中、このような貴重な実習の機会をいただき心から感謝申し上げます。